

小学校第5学年 道徳学習指導案

日 時 平成23年10月6日(木) 2校時
指導者 教育センター所員 野中 皇児

1. 主題名 『相手の立場で』 【内容項目 2-(4) 広い心で】
2. 資料名 『にんげんごみばこ』(のぶみ作)(発行 えほんの社)
3. 主題設定の理由

○ ねらいとする価値について

広がりや深まりのある人間関係を築くために必要な、謙虚な心と広い心をもった児童を育てようとする内容項目である。

自分と異なる意見や立場を大切にしようとする心は、自分を謙虚に見たり、相手から学ぼうとしたりすることから育っていくと考える。また、「自分がこう考えるのだから、相手も同じかもしれない」、「相手は自分と同じ考えとは限らない」など、時と場合によって、相手に応じて、想像力を働かせる必要があると考える。この時期の児童には、相手のことを広い心で受け止めると同時に、自分のためにも相手のためにもなるような言動ができるようになってほしい。

○ 児童について

本学級のほとんどの児童は、明るく前向きで、指導されたことを素直に聞き入れる。また、昼休みに「みんなで一緒に遊ぶ日」を設けたときなど、男女仲良く遊ぶことができる。一方、自分の感情を素直に表出しすぎるあまり、友達同士のトラブルも時々ある。

「この人ともう会いたくないと思ったことがありますか。それはどうしてですか。」という質問項目でアンケートをとったところ、「ある」という回答が35人中11人で、理由の中では、「文句を言われるから」という回答が最も多かった。この結果から、文句の背景となる相手の言い分を分かろうとする気持ちを育てることは大切なことであると考えている。

○ 資料について

いらぬ人を捨てることができる、『にんげんごみばこ』の前には、今日もたくさんの方がいらぬ人を抱えて並んでいる。しかし、『にんげんごみばこ』の前にいる番人が最後に必ず尋ねる。「本当に捨ててもいいの？」と。

多くの人々が、一時の怒りの感情に流され、その感情の対象である誰かのことを「自分のそばからいなくなってしまうといいのに」と考えた経験は、一度や二度はあると思う。しかし、嫌なままでは何も解決しない。そのようなとき、どうしたらよいかを考えさせるのに適した内容だと言える。

○ 指導について

導入では、事前に行ったアンケートの結果を提示し、同じクラスの中で、多くの友達が「この人ともう会いたくない」と思った経験があることを確認させ、本資料につなげる。

展開では、まず、『にんげんごみばこ』の前で並んでいた女の子の気持ちを考えさせる。次に、『にんげんごみばこ』の前に、なぜ番人が立っているのかについて考えさせる。最後に、なぜこの番人は、「うん、まってるよ。」と言ったのかについて考えさせる。また、言語活動の工夫として、ペアでの役割演技活動を仕組む。自分が誰かとうまくいかなかった経験を基に、番人役の相手に話をさせる。これらを通して、これから先、その時々で、広い心で、相手の立場や事情を考えることが大切だということに気付かせたい。

終末では、分かり合おうとする気持ちの大切さが心に響くような演出をしたい。

4. 本時のねらい

何らかの原因や事情で相手とうまくいかなかったとき、その相手の立場や事情を分かろうとすることが互いの関係をよくするために大切だということに気付かせ、広い心で受け止め、もっと相手のことを考えていこうとする気持ちを育てる。

5. 展開

	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点
導入	1 アンケートの結果を知る。	○ この結果を見てどう思いましたか。 ・「いなくなってしまうばいいと思ったことがある人がこんなにいるとは思わなかった。」	○ アンケートの結果を伝えることで、多かれ少なかれ、誰かに対して「いなくなってしまうばいい」といった感情をもったことがある友達が多いことに気付かせる。
展	2 絵本を読み、話し合う。	だれかとうまくいかなかったとき、どんなふう考えたらいいのだろう。	○ 本時のめあてを提示する。
		○ 女の子は、どうしてお母さんのことをいなくなってしまうばいいと思ったのでしょうか。 ・「ひどく怒られたから。」 ○ なぜ、番人は、『にんげんごみばこ』の前に立って、「本当に捨ててもいいの？」と聞くのでしょうか。 ・「じっくりと考えさせるため。」 ・「人間を捨ててはいけないから。」 ○ なぜ、番人は、「うん、まってるよ」と言ったのでしょうか。 ・「また話を聞いてあげるよ。」という気持ちだったから。	○ スクリーンで資料提示をする。 ○ アンケート結果を振り返らせ、お母さんに限らず、誰かとうまくいかなかった経験を想起させる。 ○ 本当にどんどん捨てていいのなら、番人がいる必要がないことに気付かせ、番人がいる意味を考えさせる。 ○ 補助発問「この番人はいったい誰だと思う？」 ○ 話を聞くことが、相手の立場や事情を考えることにつながることに気付かせたい。 ○ 補助発問「もし、もう来たらダメだよと言われたらどうだろう？」
開	☆ ペアで役割演技をする。 (言語活動の工夫)	(予想されるペアでのやりとりの例) 番「どうしてここに来たの？」 女「お母さんが、勉強しろ勉強しろってうるさいから。」 番「いつもそればかり言うの？」 女「そればかりではないけど。」 番「お母さんは、何で勉強しろって言うのかな？」 女「勉強した方がいいから・・・。わたし、またこんどにしようかな。」 番「うん、まってるよ。」	○ 補助発問「もし、もう来たらダメだよと言われたらどうだろう？」 ○ まず、誰かとうまくいかなかったときのことを想起させる。 ○ 隣同士のペアで役割演技をさせる。それぞれが番人と自分の役になり、番人役の子どもが「どうしてここに来たの？」というセリフから始め、「うん、まってるよ。」で終わるように指示する。 ○ 番人役をするときは、「どうしてここに来たのだろう」と、理由を詳しく知りたいという気持ちで話をするように伝える。自分の場合は、「体験したそのときのことをきちんと説明しよう」という気持ちで話をするように伝える。 ○ 3回以上お互いの会話のやりとりができるように指示する。(☆)
	3 本時を振り返り、感想を書く。		○ 誰かとうまくいかなかったとき、どんなふう考えたらいいのか、感想に書かせる。(◎)
終末	4 詩を読む。		○ 広い心で相手を受け入れることを詠った詩を紹介する。

6. 評価

◎ 相手の立場や事情を分かろうとすることが大切だということに気付いたかどうか評価する。

(道徳カードへの記述)

☆ ペアでの役割演技において、互いに3回以上のやりとりができているかどうか評価する。

(観察、道徳カードへの記述)